高鍋町埋蔵文化財調査報告書　第14集

町内遺跡発掘調査報告書

持田遺跡確認調査２
持田古墳群古墳範囲確認調査５

２００７．３

宮崎県児湯郡高鍋町教育委員会

序

本書は、高鍋町教育委員会が平成18年度に実施した町内１ヶ所における開発事業に伴う事前の確認調査と、高鍋町大字持田に所在する国指定史跡持田古墳群のうち円墳５基について古墳範囲確認調査を実施した確認調査の成果を収録したものです。持田古墳群古墳範囲確認調査は、本年度で第５年次の調査となり、本年度までで円墳21基について確認調査を実施し、数多くの資料を得ることができました。

本書が、文化財の保護に対する認識と理解、さらには学術研究に役立つとともに、生涯学習や学校教育などにおいて郷土の歴史を学ぶ教材として広く活用いただきますれば幸甚に存じます。

持田遺跡確認調査および持田古墳群古墳範囲確認調査のそれぞれの調査におきましては、地権者、耕作者のみなさまをはじめ多くの関係者には暖かいご理解と多大なるご協力を賜りました。心から感謝の意を表する次第であります。

平成19年３月

高鍋町教育委員会
教育長　　萱　嶋　　稔

例　言

1．本書は、持田遺跡確認調査及び、国指定史跡持田古墳群の第17号墳・第18号墳・第30号墳・第44号墳・第45号墳の古墳範囲確認調査についての発掘調査報告書である。

2．調査は、平成18年度に国庫補助金、県費補助金を得て、高鍋町教育委員会が実施した。

3．調査の組織

調査の主体　高鍋町教育委員会

教育長	萱　嶋　　稔
社会教育課課長	山　本　泰　英
同　課長補佐	青　木　善　明
同　文化財係係長	山　本　　格（調査担当）
同　文化財係主査	小　澤　宏　之

調査指導　宮崎県教育庁文化財課

特別調査員　徳島文理大学文学部　助教授　大久保　徹也（持田古墳群範囲確認調査）

4．図面の作成は、山本が行ない作業員がこれを補助した。

5．遺物・図面の整理は、高鍋町教育委員会において、山本が行い整理作業員がこれを補助した。

6．本書に使用した写真は、山本が撮影した。空中写真については㈲スカイサーベイ九州に委託した。

7．本書に使用した座標（緯度・経度）は、測地成果2000で、土地家屋調査士徳田公生に委託した。

8．本書に使用した方位は磁北で、高さは、海抜絶対高である。

9．本書の編集・執筆は、山本がおこなった。

目　　次

持田遺跡確認調査２

本文目次

第１章　はじめに……1
　第１節　調査にいたる経緯……1
　第２節　立地と環境……1
第２章　調査の概要……4
　第１節　調査の概要……4
第３章　まとめ……5
挿図目次　第１図　調査地位置および付近遺跡図（１／5,000）……2
　第２図　調査地位置図（１／600）……3
　第３図　調査トレンチ位置図（１／200）……4
図版目次　図版１　調査区全景、調査トレンチの状況、同　西列、１号、２号、３号、４号、５号トレンチ……7
　図版２　６号、７号、８号、９号、10号、11号、12号、13号トレンチ……8
　図版３　14号、15号、16号、17号、18号、19号、18号トレンチ南西壁……9

持田古墳群古墳範囲確認調査５

本文目次

第１章　はじめに……13
　第１節　調査にいたる経緯……13
　第２節　立地と環境……13
第２章　調査の概要……15
　第１節　調査の概要……15
　第２節　第17号古墳……16
　第３節　第18号古墳……17
　第４節　第30号古墳……18
　第５節　第44号古墳……19
　第６節　第45号古墳……21
第３章　まとめ……21
挿図目次　第１図　調査地付近遺跡分布図（１／10,000）……14
　第２図　調査地位置図（１／5,000）……15
　第３図　第17号古墳調査トレンチ位置および遺構図（１／200）……16
　第４図　第18号古墳調査トレンチ位置および遺構図（１／200）……17
　第５図　第30号古墳調査トレンチ位置図（１／200）……18
　第６図　第44号古墳調査トレンチ位置および遺構図（１／200）……19
　第７図　第45号古墳調査トレンチ位置および遺構図（１／200）……20

図版目次

図版１　持田17号墳調査トレンチの状況、１号、２号、３号、４号、
５号、Ａ区、６号トレンチ ……23
図版２　持田17号墳７号、８号トレンチ、持田18号墳調査トレンチの状況
１号、２号、３号、４号トレンチ……24
図版３　持田30号墳調査トレンチの状況、１号、２号、３号、
４号トレンチ ……25
図版４　持田44号墳１号トレンチ、１号トレンチ周溝の状況、
２号トレンチ、２号トレンチ周溝の状況、
３号トレンチ、３号トレンチ溝状遺構、
４号トレンチ、４号トレンチ周溝の状況 ……26
図版５　持田45号墳１号トレンチ、１号トレンチ葺石・周溝の状況、
２号トレンチ、２号トレンチ周溝の状況、
３号トレンチ、３号トレンチ周溝の状況、
４号トレンチ、４号トレンチ葺石・周溝の状況……27
調査抄録 ……29

持田遺跡確認調査２

第１章　はじめに

第１節　調査にいたる経緯

宮崎県児湯郡高鍋町大字持田（もちだ）の台地面には、国指定史跡の持田（もちだ）古墳群がある。この古墳群主群部分の分布範囲はまた周知の埋蔵文化財包蔵地「持田遺跡」として周知されている。この持田遺跡内の持田古墳群第１号墳隣接地において平成16年度に地権者による個人住宅建設計画があり、平成17年１月から３月にかけて、高鍋町教育委員会が埋蔵文化財の所在の有無について確認調査を実施している。この確認調査においては、同地が持田古墳群第１号墳の周溝の範囲内にあたる可能性を確認した。

今回は、同地権者による再度の宅地造成および住宅建設計画があり、前回の計画は中止され、前回予定地の北に接する箇所に予定地を変更しての計画であった。

地権者から、高鍋町教育委員会に対し再度、工事予定地について埋蔵文化財の所在の有無について照会があったので、工事予定地について埋蔵文化財の所在の確認調査を実施することになった。

第２節　立地と環境

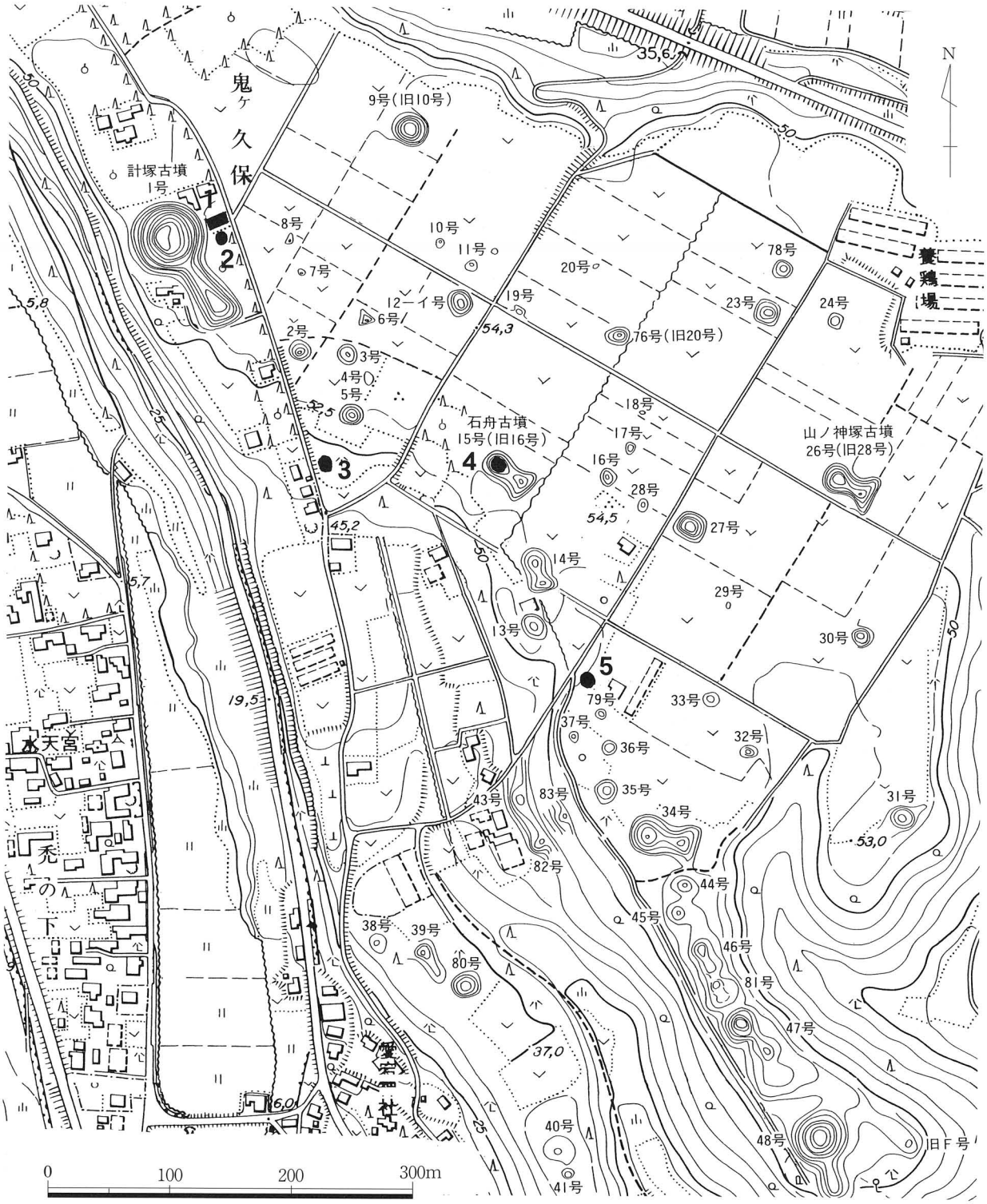
高鍋町は、東に日向灘に面し、市街地がひろがる海抜約10m未満の沖積平野を北・西・南から、海抜約50mから約70mの洪積台地が取り囲む地形をしている。この沖積平野を九州山地に源を発した小丸川が北東から南東に流れ日向灘にそそいでいる。

持田遺跡の分布範囲は、持田古墳群の中心となる群の分布する範囲とほぼ同域で小丸川の北岸に位置する標高約50m台の洪積台地に位置している。

今回の調査地は、持田古墳群で最大の墳長約120mで柄鏡形の前方後円墳である第１号墳の計（はかり）塚（つか）の東に隣接する畑地である。

調査地の南南東約190mには、鬼ヶ久保（おにがくぼ）Ｂ遺跡があり、既に削平された円墳の主体部で、南西に開口した河原石積みの石室で長さ約4.3m、奥壁幅約0.8m、現存の石積みの高さ約0.6mであった。副葬品には、銅環、杯、鉄族、勾玉、管玉が出土した。また、南東約300mにある持田15号墳は、墳長約46mの前方後円墳で後円部から、阿蘇溶結凝灰岩製の舟形石棺が出土している。さらに、南西約460mの箇所では、弥生時代後期の住居跡２軒が確認されている。

【参考文献】
『高鍋町遺跡詳細分布調査報告書』 1989　高鍋町教育委員会
『宮崎県史　資料編　考古２』 1993　宮崎県
『宮崎県史叢書　宮崎県前方後円墳集成』 1997　宮崎県



1　調査地　　2　平成16年度調査地　　3　鬼ヶ久保B遺跡

4　持田15号墳（石舟塚）　　5　弥生時代後期の住居跡

第１図　調査地位置および付近遺跡図（１／5,000）

第２図　調査地位置図（１／600）

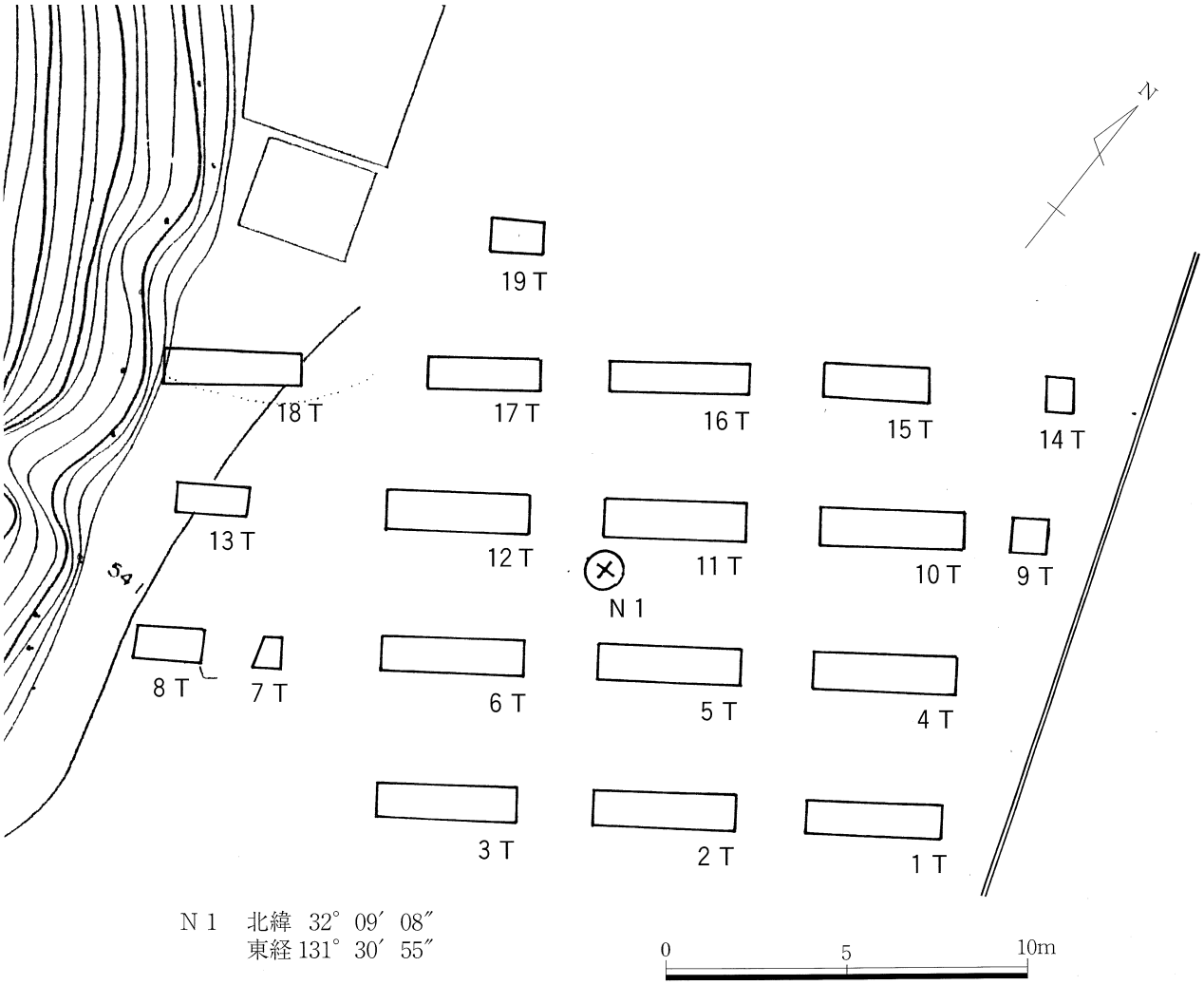
第２章　調査の概要

第１節　調査の概要

今回の調査地は、国指定史跡持田古墳群第１号墳の後円部の北東側に接する箇所で、当地の標高は、約54mである。調査対象区域は、畑地でビニールハウスが設置されており、縦約18m、横約24mであった。この区域内にトレンチを19本設定し、その発掘調査面積は、約57.3m²である。調査は、平成18年10月20日から12月６日まで実施した。

調査トレンチは、幅約１m、長さ約４mを標準として、１列３本、４列設定し各列の間隔を約３mとし、その他に補足のトレンチを７本設定した。

工事予定内容が盛土による宅地造成であり、当初の計画では隣接する持田１号墳の墳丘裾部分に盛土が接合するものであったので、１号から19号トレンチのうち、18号トレンチの南西端は、同古墳の裾の一部に接する箇所までトレンチを設定した。このトレンチの南西壁の箇所で、持田１号墳の葺石を検出した。



第３図　調査トレンチ位置図（１／200）

各々のトレンチにおいて、表土である耕作土の約30㎝～40㎝の深さにおいて、橙色土の地山面にいたる。この地山面において、現在の芋貯蔵穴跡や廃棄坑などを確認した。

11号トレンチからは、現代に掘られた穴から廃棄礫に混じり石錘が１点出土した。

第３章　まとめ

今回の確認調査において、設定したトレンチにおいて、現況地面の耕作土層とその下層にある地山面（橙色土、小礫混じり）の層位がみられた。南列の１号～３号トレンチおよび北列の14号～18号トレンチにおいても同様であった。持田１号墳から約25ｍを隔てた９号・14号トレンチにおいても同様である。

この調査区域内においては、通常にみられる表土下の黒色土やアカホヤ火山灰層などが確認されないため、地層が削りとられていることが考えられる。

これらのことから、この調査区域はいづれの調査箇所においても、持田１号墳の古墳周溝の範囲内に位置するものと考えられる。この古墳周溝の東側の範囲は調査対象区のさらに東方になるものと考えられる。今回の調査区域の東方において、確認調査等の機会を得た際には、持田１号墳の古墳周溝の区域について意識して調査したい。

今回の確認調査において、特に18号トレンチの南西端で同古墳の葺石の一部を確認したため、この保存について地権者と協議した結果、宅地造成による盛土区域については古墳墳丘から隔てて実施されることとなった。

調査区全景（西から）

調査トレンチの状況（東から）

調査トレンチの状況　西列（南西から）
左が18Ｔ

１号トレンチ（東から）

２号トレンチ（東から）

３号トレンチ（東から）

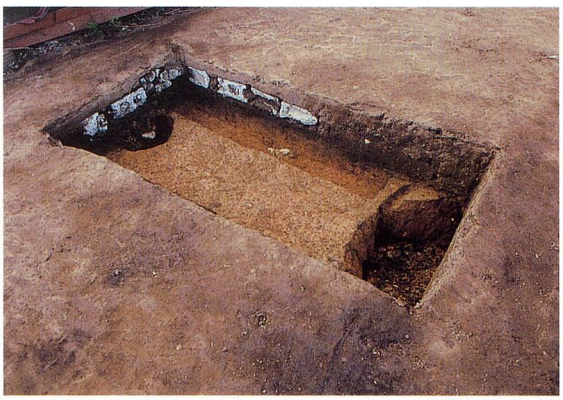
４号トレンチ（東から）

５号トレンチ（東から）

図版２

６号トレンチ（東から）

７号トレンチ（東から）



８号トレンチ（東から）

９号トレンチ（南東から）

10号トレンチ（東から）

11号トレンチ（東から）

12号トレンチ（東から）

13号トレンチ（東から）

14号トレンチ（南東から）

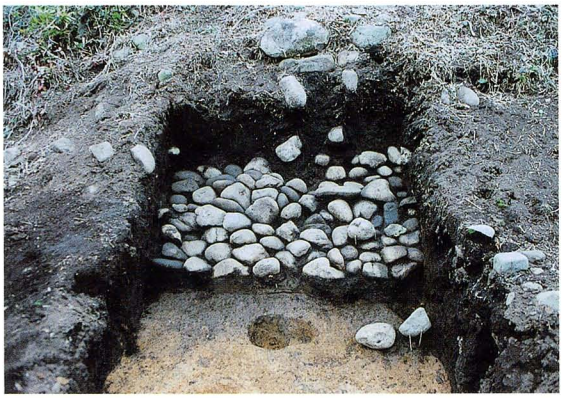
15号トレンチ（東から）

16号トレンチ（東から）

17号トレンチ（東から）

18号トレンチ（東から）

19号トレンチ（東から）



18号トレンチ、南西壁（北東から）
（持田１号墳　葺石の状況）

持田古墳群古墳範囲確認調査５

第１章　はじめに

第１節　調査にいたる経緯

宮崎県児湯郡高鍋町大字持田（もちだ）には、昭和36年２月25日に国の史跡指定を受けた持田（もちだ）古墳群がある。この古墳群を保存し公開することを目的として、平成13年度に高鍋町教育委員会が、持田古墳群整備計画書を策定した。この計画書は、同古墳群の長期にわたる整備基本計画である。

この計画をもとに、平成14年度から古墳群の整備に必要な基礎資料の収集を実施している。平成17年度までに16基の円墳について範囲確認調査を実施した。今年度は、その第５年次の調査で、５基の円墳について古墳範囲確認調査を実施することになった。

第２節　立地と環境

高鍋町は、東に日向灘に面し、市街地がひろがる海抜約10m未満の沖積平野を北・西・南から、海抜約50mから約70mの洪積台地が取り囲む地形をしている。この沖積平野を九州山地に発した小丸川が北東から南東に貫流し日向灘にそそぐ。

持田古墳群の主群は、この沖積平野の北辺で小丸川の北岸にあたる標高約60mの洪積台地の縁辺に位置しており、台地面に発生した沢がつくる谷が北から東へ走り、舌状に張り出す台地面に位置する。ここには、前方後円墳９基と円墳60基が分布する。この台地面には、持田遺跡として周知され弥生時代末期の住居跡も確認されている。

持田台地の舌状の南端には、持田中尾（もちだなかお）遺跡が知られる。旧石器、縄文、弥生前期～後期、古墳時代にわたる遺跡で、弥生時代の竪穴式住居跡２軒、割竹形木棺をもつ円墳が調査された。

同台地の東の谷を隔てた対岸の台地面には、上ノ別府（かみのびゅう）遺跡があり、古墳時代後期の竪穴式住居跡９軒が検出された。同台地の北の谷を隔てた対岸の台地面には、下り松（くだまつ）遺跡があり、縄文から弥生時代の遺跡として周知されている。

さらに、同台地の東端の裾部の微高の平坦面は、東光寺（とうこうじ）遺跡があり、古墳時代の遺跡である。ここには、室町時代の永禄五年（1562）に建立の十三仏板碑（笠塔婆）がある。

江戸時代には、古墳群の西辺の台地縁辺の道を高鍋藩主が参勤交代に往来した。

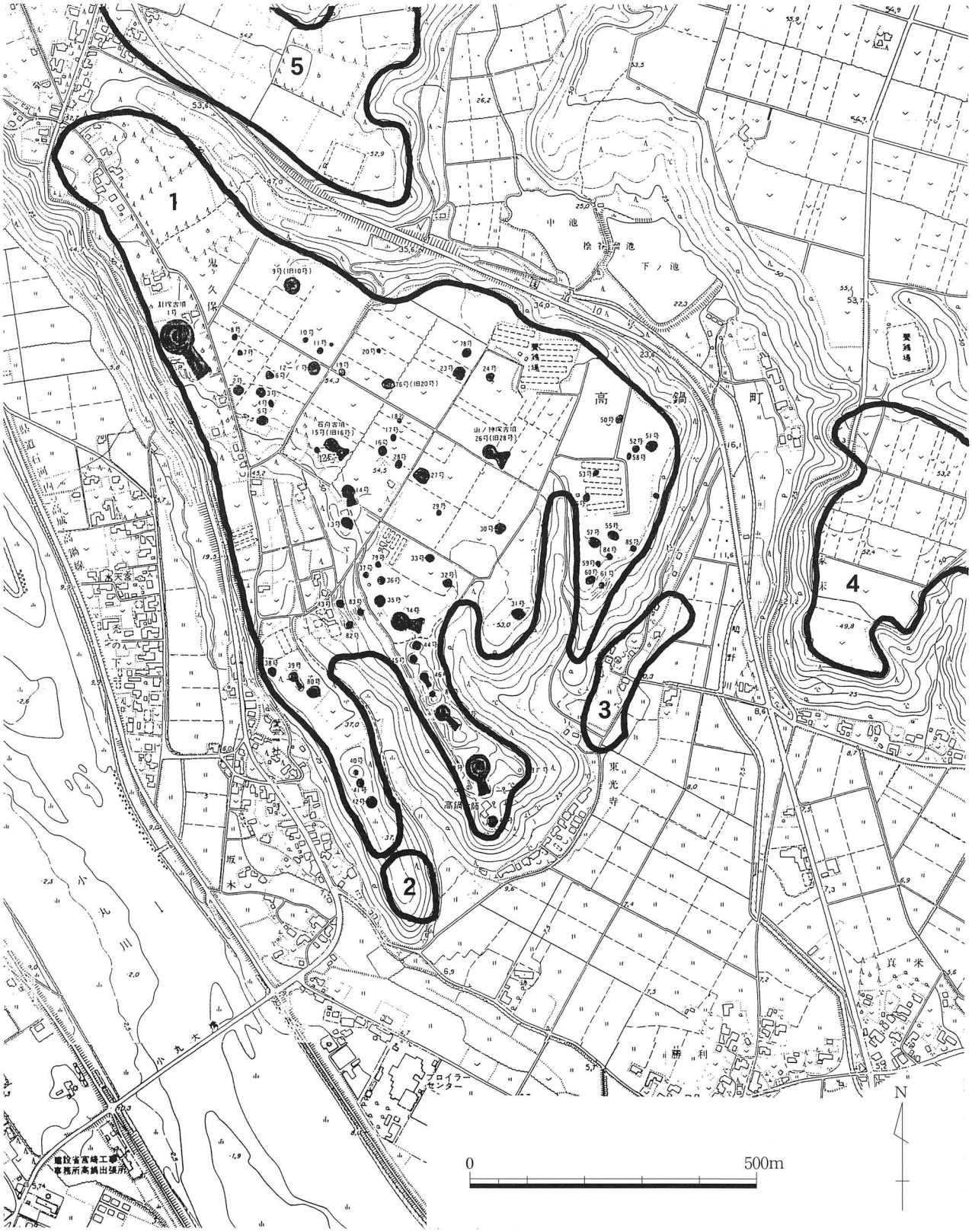
【参考文献】

『お染ケ岡特殊農地保全事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』 1979　宮崎県教育委員会

『持田中尾遺跡』 1982　高鍋町教育委員会

『高鍋町史』 1987　高鍋町教育委員会

『高鍋町遺跡詳細分布調査報告書』 1989　高鍋町教育委員会



1　持田古墳群・持田遺跡　　2　持田中尾遺跡　　3　東光寺遺跡

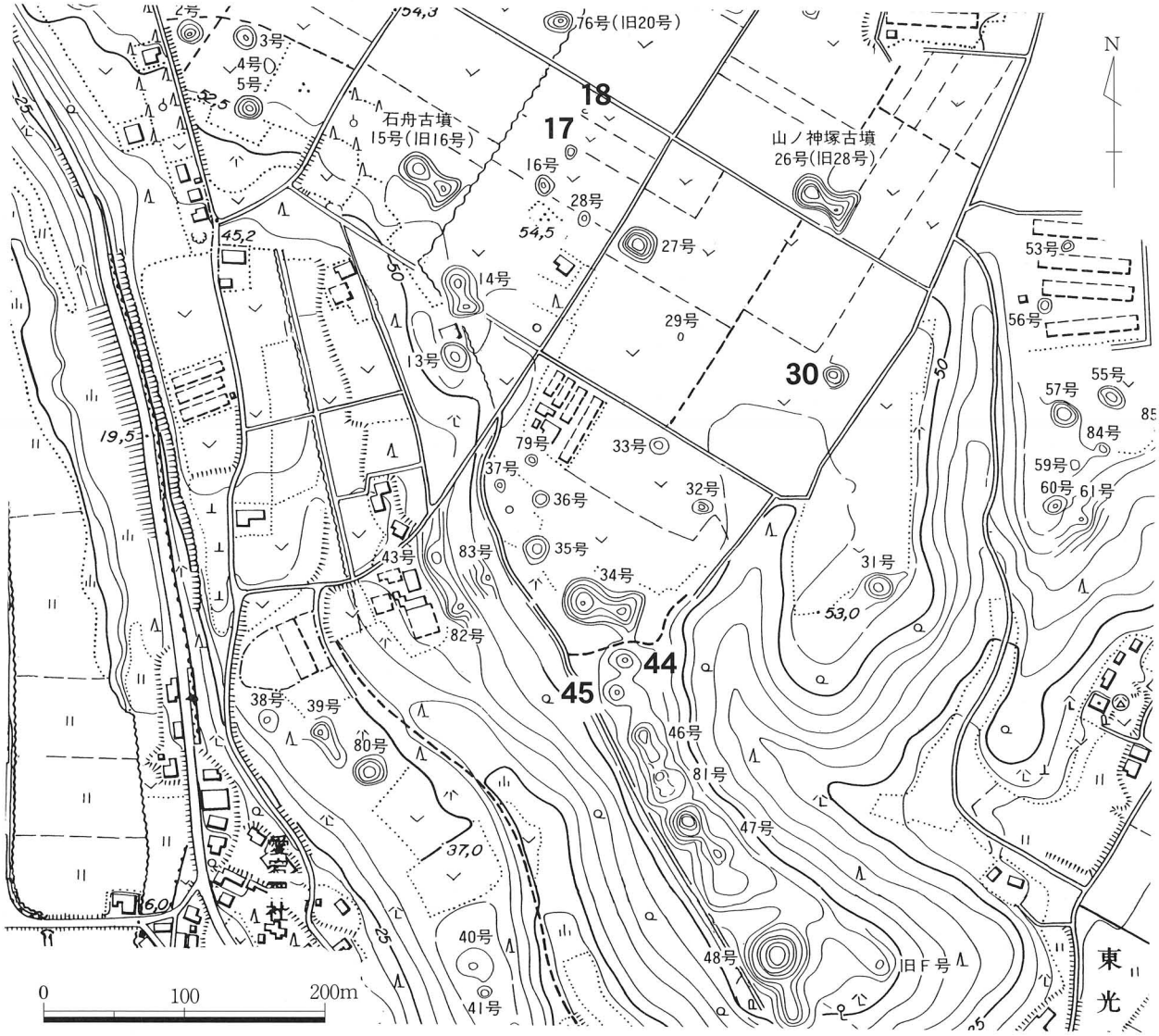
4　上ノ別府遺跡　　5　下り松遺跡

第１図　調査地付近遺跡分布図（１／10,000）

第２章　調査の概要

第１節　調査の概要

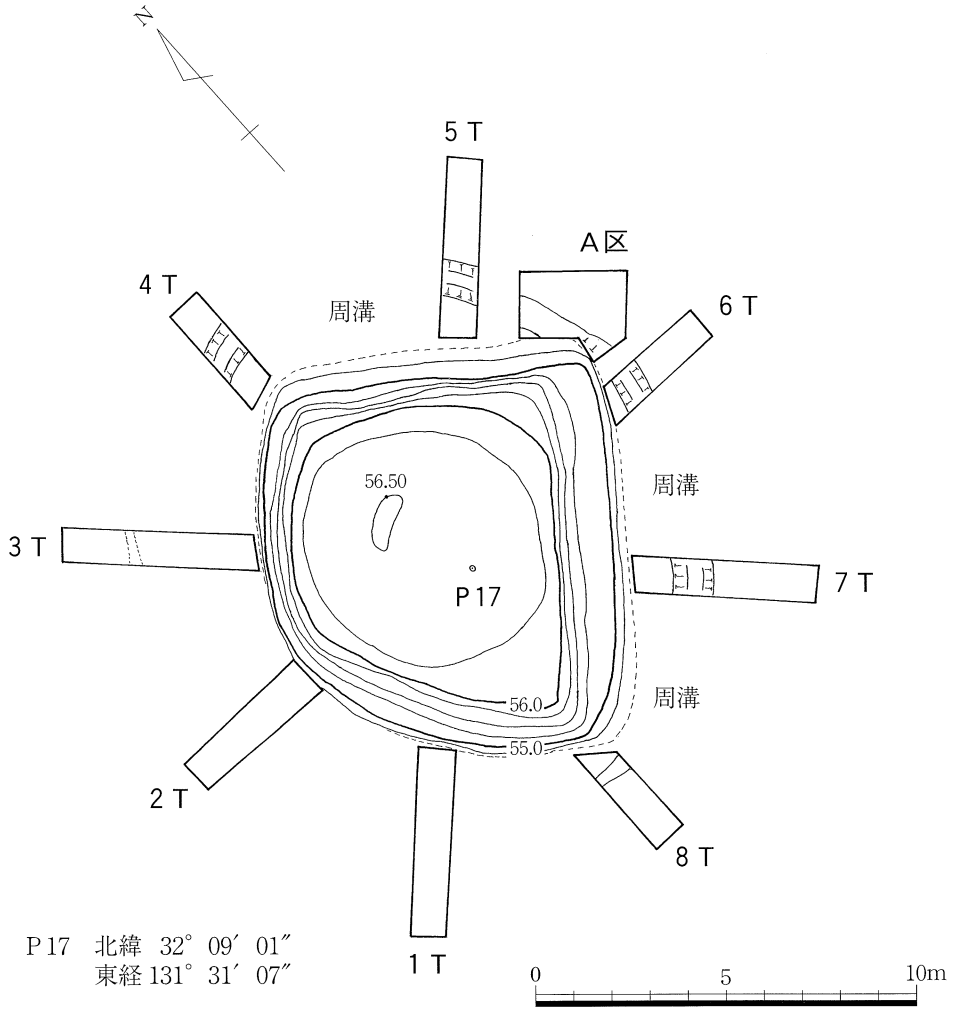
古墳範囲確認調査は、円墳５基で、第17号古墳、第18号古墳、第30号古墳、第44号古墳、第45号古墳の５基の円墳について、墳丘測量および古墳周囲を対象としてトレンチを設定し古墳範囲を調査した。調査期間は、平成18年12月12日に開始し、平成19年３月22日に終了した。確認調査のトレンチ面積は、約127.7㎡である。



17　第17号墳　　18　第18号墳　　30　第30号墳

44　第44号墳　　45　第45号墳

第２図　調査地位置図（１／5,000）



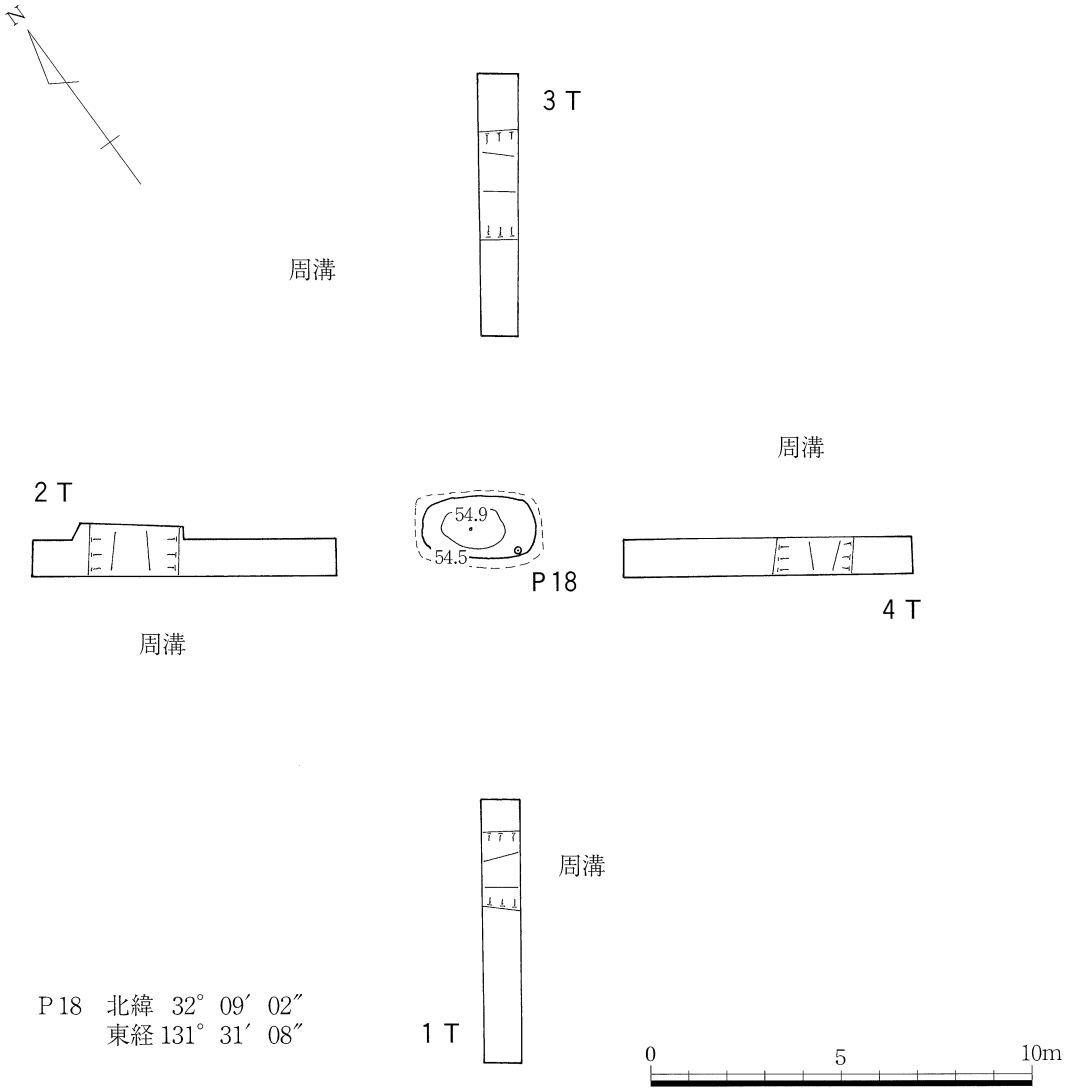
第３図　第17号墳調査トレンチ位置および遺構図（１／200）

第２節　第17号墳

第17号墳は、その周囲は畑地で、現況では約11m×約10mの台形状を示し、墳丘の高さ約2.2mの円墳である。調査トレンチは、墳丘周囲に各々45度の角度で８本設定した。縦横の基準のトレンチの幅は１m、長さは５mを標準とした。その他のトレンチの長さは周溝の状況により設定した。補足として、墳丘の東部に周溝検出のみを目的としてＡ区を設定した。併せて、墳丘測量を25cm等高線により実施した。

墳丘西面の１～３号トレンチでは、周溝が遺存すると考えられる箇所以深まで地層が削平されていた。墳丘東面の各トレンチでは古墳周溝を確認した。６号トレンチでは須恵器片が出土した。

周溝検出面での周溝幅は、約0.7mから約1.1mである。３号トレンチと８号トレンチで確認した周溝外肩間の距離から復元される周溝外郭は直径約16mである。



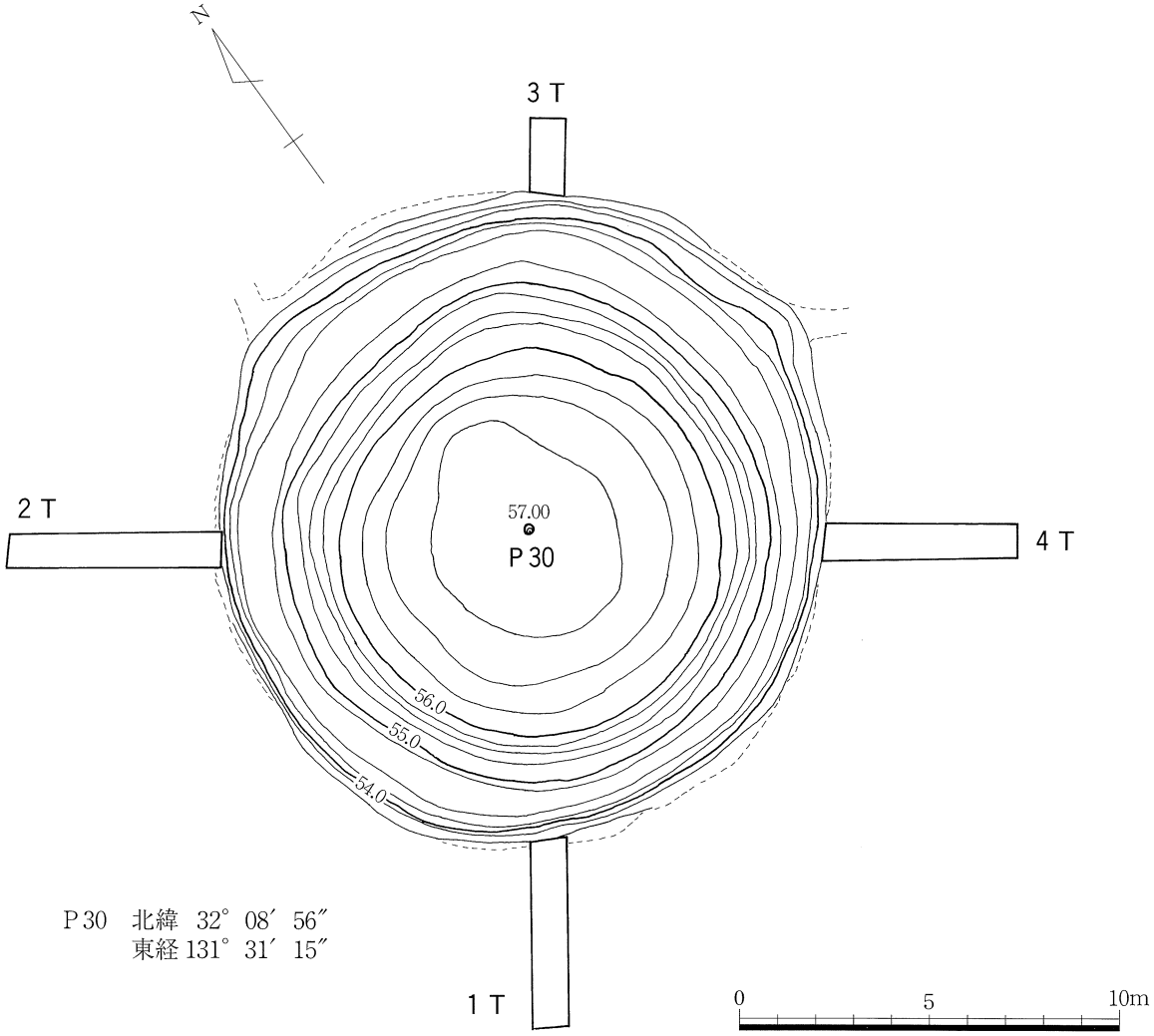
第４図　第18号墳調査トレンチ位置および遺構図（１／200）

第３節　第18号墳

第18号墳は、その周囲は畑地で、現況では約3.5m×約２mの楕円形状を示し、墳丘の高さ約0.7mの円墳である。調査トレンチは、墳丘周囲に各々90度の角度で４本設定した。トレンチの幅は１m、長さは７～８mとした。併せて、墳丘測量を25cm等高線により実施した。

第18号墳の付近では、耕作機械による一部攪乱の影響はあるものの、耕作土の直下に黒色土、アカホヤ火山灰層が良好に遺存しており、地層の削平はほとんど受けていないものと考えられる。

各々のトレンチにおいて古墳周溝を確認した。周溝検出面での周溝幅は、約２mから約2.7mである。１号～３号トレンチおよび２号～４号トレンチで確認した周溝外肩間の距離から復元される周溝外郭は直径約20.2mである。



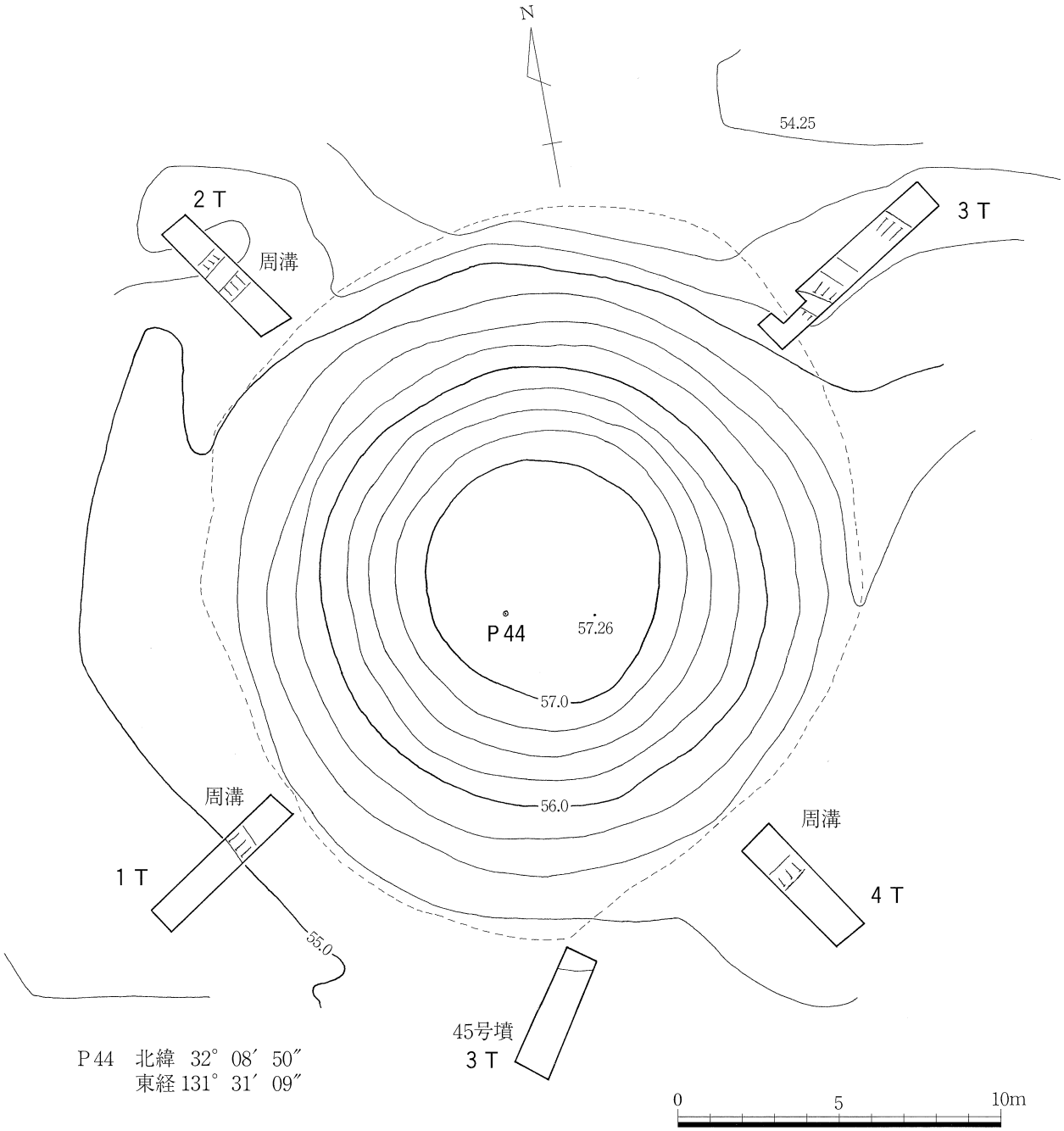
第５図　第30号墳調査トレンチ位置図（１／200）

第４節　第30号墳

第30号墳は、その周囲は畑地で、現況では直径約16ｍの円形を示し、墳丘の高さ約４ｍの円墳である。調査トレンチは、墳丘周囲に各々90度の角度で４本設定した。トレンチの幅は１ｍ、長さは５ｍを標準としたが、周囲の畑の状況に応じて設定した。併せて、墳丘測量を25㎝等高線により実施した。

第30号墳の付近では、耕作土の直下約30㎝において姶良Ｔｎ火山灰層となり、当地付近にみられる地層から、少なくとも約１ｍ以上とみられる地層の削平を受けているものと考えられる。

各々のトレンチにおいて、古墳周溝とみられる遺構の確認にはいたらなかった。古墳の築造当時に古墳周溝を有したのか、あるいは、設けられていないのかについては不明である。



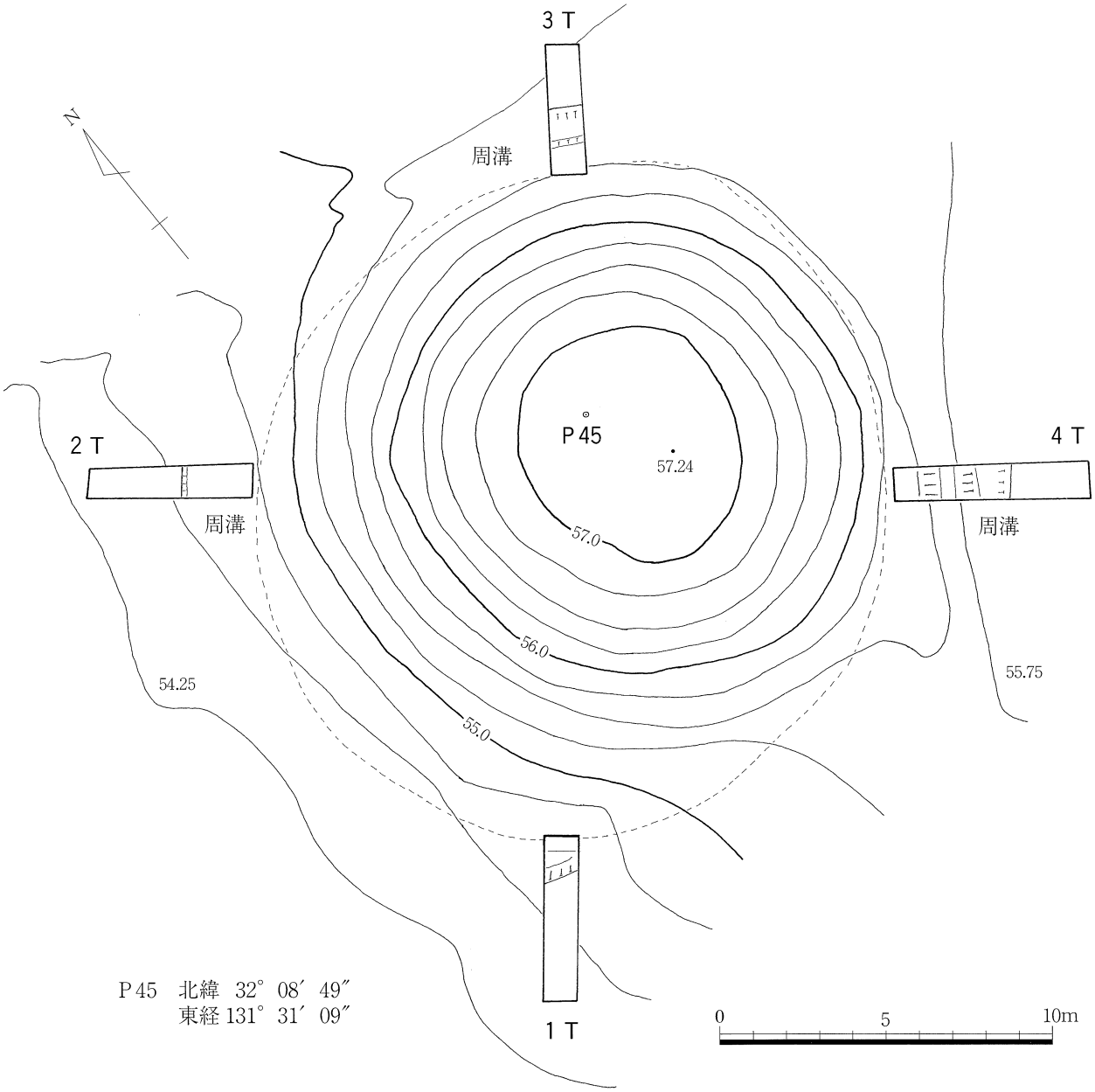
第６図　第44号墳調査トレンチ位置および遺構図（１／200）

第５節　第44号墳

第44号墳は、台地からの支尾根の根元に位置し周囲は山林で、現況では直径約21ｍの円形状を示し、墳丘の高さ約2.6ｍの円墳で、墳丘はなだらかな裾野を有している。古墳の北方に向けて緩やかに下り、東方はやや高く平坦で、西面は東面よりもやや低い。

調査トレンチは、墳丘周囲に各々90度の角度で４本設定した。トレンチの幅は１ｍを標準とし、長さは立木の状況により任意に設定した。併せて、墳丘測量を25㎝等高線により実施した。

第44号墳は、１号、２号、４号トレンチにおいて古墳周溝を確認した。古墳の裾野が良好な形状にあるので、トレンチにて確認した古墳周溝は周溝内から外肩にかけての部分である。周溝内



第７図　第45号墳調査トレンチ位置および遺構図（１／200）

肩の検出にいたらなかったため、古墳周溝の検出面での幅は不明であるが、確認した周溝からその幅は約２ｍ以上になるものと推測される。また、１号トレンチで確認した周溝内からは墳丘から流入したと考えられる直径約10cm程度の丸みのある礫が出土した。このため、第44号墳は墳丘に葺石をもつといえる。３号トレンチでは、古墳周溝とは別と考えられる溝状遺構を検出した。古墳との関係については不明である。

２号～４号トレンチにおいて確認した周溝外肩間の距離から復元される周溝外郭は直径約24.5ｍである。

第６節　第45号墳

第45号墳は、第44号墳の西南西に隣接し台地からの支尾根上に位置し、周囲は山林で、現況では直径約20ｍの円形状を示し、墳丘の高さ約2.5ｍの円墳で、墳丘はなだらかな裾野を有している。古墳の立地は西側に緩やかに下り、古墳西側よりも東側は約１ｍ高く平坦である。

調査トレンチは、墳丘周囲に各々90度の角度で４本設定した。トレンチの幅は１ｍを標準とし、長さは立木の状況により任意に設定した。併せて、墳丘測量を25㎝等高線により実施した。

第45号墳は、１号、２号、３号、４号トレンチにおいて古墳周溝を確認した。特に４号トレンチでは、墳丘の葺石と周溝を確認した。ここでの周溝の幅は約２ｍである。１号トレンチの墳丘側設定位置で、４号トレンチの墳丘側位置よりも約70㎝低くなり、この１号トレンチでの周溝幅は、約0.7ｍとなっている。また１号、３号トレンチにおいても古墳周溝とそのなかに流入したとみられる直径約10㎝程度の丸みのある礫を確認した。２号、３号トレンチでは、周溝の外肩を確認した。この古墳は、墳丘に葺石と古墳周溝をもつ円墳であることを確認した。

２号～４号トレンチにおいて確認した周溝外肩間の距離から復元される周溝外郭は直径約25ｍである。

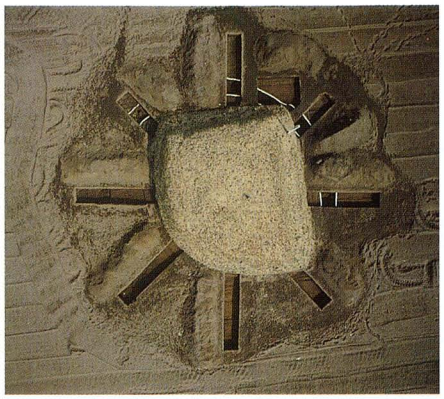
第３章　まとめ

今回の古墳範囲確認調査では、山林内に位置し、墳丘が耕作等の影響を極力受けていないと考えられる第44号墳と第45号墳の２基の円墳について確認調査の機会を得ることができた。これらの古墳では、葺石をもつ古墳であることが確認できたこと、なだらかな墳丘と裾野をもつ古墳のそのさらに周囲に古墳周溝の外肩の所在が確認でき、その周溝の内肩の位置は、現況の墳丘裾野のより内側にめぐることを認識することができたことは大きな成果である。

さらに台地から派生する支尾根の面において、緩やかな斜面地における古墳築造と地形の高低差によるその周溝の形状の差異について、第45号墳の１号、４号トレンチで確認することができた。古墳築造当時の環境により近いと考えられる箇所に位置する古墳の範囲確認調査により、より古墳周溝や古墳形状についての資料を収集することができた。

また、台地内面にあり、現在は古墳の周囲が畑地である古墳について、第17号墳の範囲確認のトレンチにより判明した地層の削平と古墳周溝の遺存の状況、その古墳に隣接する第18号墳のように墳丘に耕作等で大きな影響を受けている古墳についての範囲確認調査において、付近の地層の良好な遺存と、古墳周溝の遺存状況を確認し、古墳範囲を明確にできたこと、古墳築造当時の当地付近の地形復元の資料を得たことは大きな成果である。

第30号墳については、古墳周囲の地層が著しく削平されている状況を確認できた。古墳群のある台地面の旧地形については、十分な資料に乏しく不明な点が多く残されている。これらの解明への資料の収集についても、古墳範囲確認調査とあわせて、持田古墳群の性格の解明に必要不可欠な事項である。



持田17号墳
調査トレンチの状況
下：１Ｔ
左：３Ｔ
上：５Ｔ
右：７Ｔ

持田17号墳　１号トレンチ（南から）

持田17号墳　２号トレンチ（南西から）

持田17号墳　３号トレンチ（西から）

持田17号墳　４号トレンチ（北西から）

持田17号墳　５号トレンチ（東から）

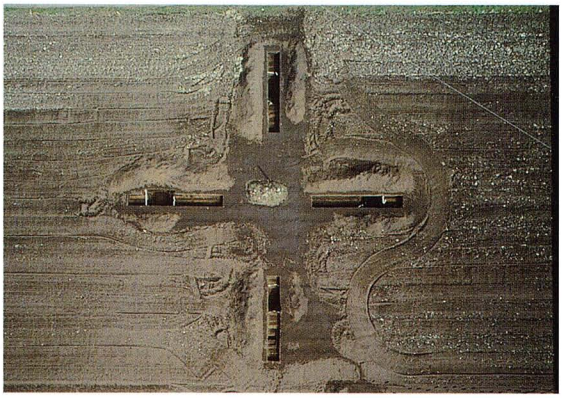
持田17号墳　Ａ区（南東から）

持田17号墳　６号トレンチ（南東から）

図版２

持田17号墳　７号トレンチ（南から）

持田17号墳　８号トレンチ（南西から）



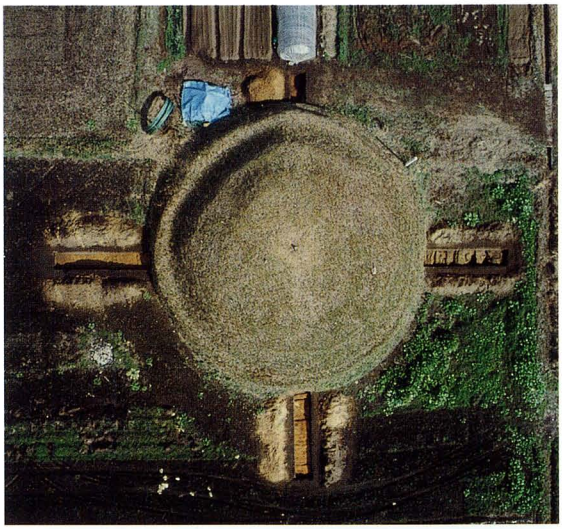
持田18号墳
調査トレンチの状況
下：１Ｔ
左：２Ｔ
上：３Ｔ
右：４Ｔ

持田18号墳　１号トレンチ（南から）

持田18号墳　２号トレンチ（西から）

持田18号墳　３号トレンチ（北東から）

持田18号墳　４号トレンチ（南東から）



持田30号墳
調査トレンチの状況
下：１Ｔ
左：２Ｔ
上：３Ｔ
右：４Ｔ

持田30号墳　１号トレンチ（南から）

持田30号墳　２号トレンチ（西から）

持田30号墳　３号トレンチ（東から）

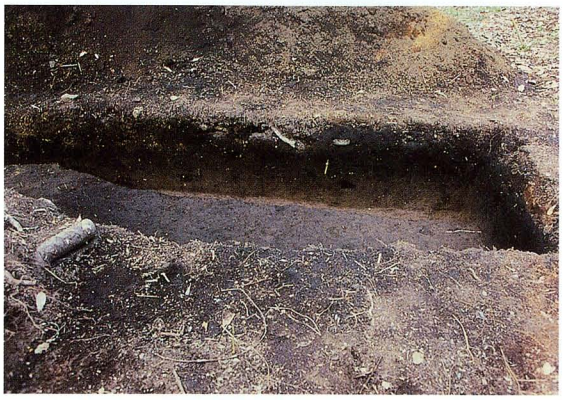
持田30号墳　４号トレンチ（南東から）

図版４

持田44号墳　１号トレンチ（西から）

１号トレンチ　周溝の状況（北西から）

持田44号墳　２号トレンチ（北西から）



２号トレンチ　周溝の状況（南西から）

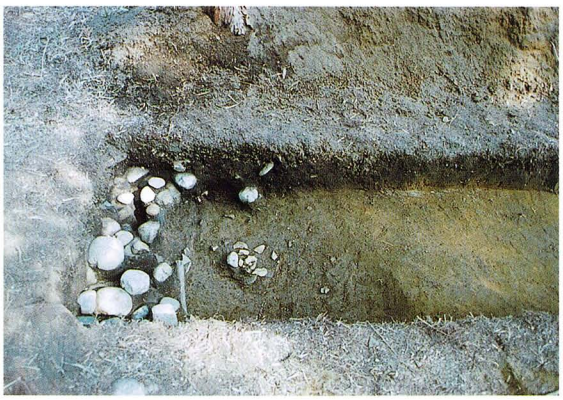
持田44号墳　３号トレンチ（北東から）

３号トレンチ　溝状遺構（北西から）

持田44号墳　４号トレンチ（南から）

４号トレンチ　周溝の状況（南西から）

持田45号墳　１号トレンチ（南西から）

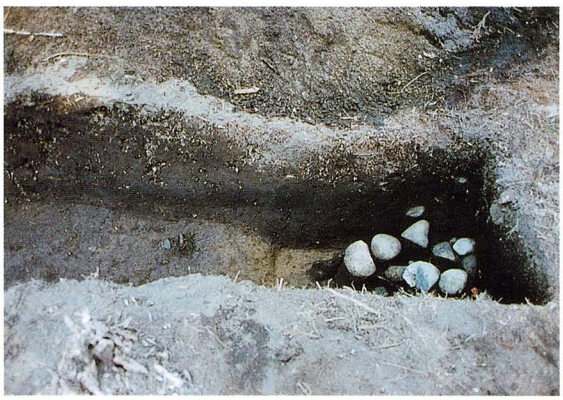


１号トレンチ　葺石・周溝の状況（北西から）

持田45号墳　２号トレンチ（西から）

２号トレンチ　周溝の状況（西から）

持田45号墳　３号トレンチ（北から）



３号トレンチ　周溝の状況（北西から）

持田45号墳　４号トレンチ（南東から）

４号トレンチ　葺石・周溝の状況（南西から）

調　査　抄　録

ふりがな	ちょうないいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	町内遺跡発掘調査報告書
副書名	持田遺跡確認調査２　持田古墳群古墳範囲確認調査５
巻次	
シリーズ名	高鍋町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第14集
編著者名	山本　格
発行機関	高鍋町教育委員会
所在地	宮崎県児湯郡高鍋町大字上江８３３５番地
発行年月日	平成19年３月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
持田遺跡	高鍋町大字持田 字計塚	45401	1010	32° 09′ 08″	131° 30′ 55″	20061020 ～ 20061206	57.3	個人宅地造成
持田古墳群 第17号墳 第18号墳 第30号墳 第44号墳 第45号墳	宮崎県児湯郡 高鍋町大字持田 字関所 字西ヶ原 字東光寺	45401	1010	32° 08′ 56″	131° 31′ 15″	20061212 ～ 20070322	127.7	古墳範囲確認

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
持田遺跡	古墳	古墳	古墳周溝		１号墳（前方後円墳）の周溝範囲内の可能性がある。
持田古墳群 第17号墳 第18号墳 第30号墳 第44号墳 第45号墳	古墳	古墳	古墳周溝	須恵器	古墳周溝が良好に遺存している古墳を確認。

高鍋町埋蔵文化財調査報告書　第14集

町内遺跡発掘調査報告書

持田遺跡確認調査 2
持田古墳群古墳範囲確認調査 5

２００７年３月

編集・発行　宮崎県児湯郡高鍋町教育委員会
印　　刷　㈱印刷センタークロダ
宮崎市大橋２丁目175番地
〒880-0022　電話24－4351番